



県政世論調査

平成 21 年度

概要報告書



静 岡 県

調査の概要	1
生活についての意識	2
暮らし向き	3
日常生活の悩みや不安	4
静岡県の住みよさ	5
県の仕事に対する関心	5
県政への関心度	6
県への意見や要望	7
県への意見や要望を反映させる手段	8
広報媒体の浸透度	10
県政情報の入手先	11
県の主要イベントや用語の周知度	13
県に望む施策	14
県民の地域活動への参加に関する意識	14
参加している地域の行事や活動	14
地域活動に自発的に参加したくなるための条件	15
環境問題に関する意識	15
環境にかかわって重要な問題	15
環境を守るために、普段心がけていること	15
快適な環境を継承するため、県に積極的に取り組んでほしいこと	16
地域がん登録に関する意識	16
地域がん登録（制度）についての賛否	17
農林水産業・農産漁村に関する意識	17
静岡県の農林水産業に期待するもの	17
安全・安心な県内産農産物の安定的生産・供給に必要と思うもの	18
観光客の受け入れに関する意識	18
住んでいる地域での観光客など訪問者の増加について	18
他の地域からの訪問客とのふれあいについて	19
森林（もり）づくり県民税及び森の力再生事業に関する意識	19
森林（もり）づくり県民税の認知度	19
森林（もり）づくり県民税の負担について	20
静岡県の将来像（10年後の静岡県の姿）に関する意識	20
10年後の静岡県に望む姿	20
これからの社会の方向性についての意見に対する考え	

調査の概要

1 調査の目的

県民の生活についての意識、県政の主要課題についての意識などを把握し、県政推進のための基礎的な資料とする。

2 調査の内容

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| (1) 生活についての意識 | (6) 農林水産業・農山漁村に関する意識 |
| (2) 県の仕事に対する関心 | (7) 観光客の受入れに関する意識 |
| (3) 県民の地域活動への参加に関する意識 | (8) 森林（もり）づくり県民税と森の力再生事業に関する意識 |
| (4) 環境問題に関する意識 | (9) 静岡県の将来像（10年後の静岡県の姿）に関する意識 |
| (5) 地域がん登録に関する意識 | |

3 調査の設計

- 調査地域 静岡県全域
- 調査対象 県内在住の満20歳以上の男女個人
- 標本数 2,000
- 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- 調査方法 調査員による面接調査
- 調査時期 平成21年6月1日～6月21日
- 調査機関 株式会社アイアールネットワーク

4 回収結果

	20歳以上の推定人口	標本数	回収率 (%)
東 部	1,030,944	660	495 (75.0)
中 部	981,663	649	465 (71.6)
西 部	1,067,957	691	547 (79.2)
全 県	3,080,564	2,000	1,507 (75.4)

この冊子のよみかた

- 1 結果は百分率で表示した。数表・グラフの百分率は小数第2位を、結果の概要説明文では小数第1位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体を示す数値とが一致しないことがある。
- 2 回答結果は1,507を100%として示した。なお一部の方に対する質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- 3 質問の末尾に（M. A.）とあるのは、1人の対象者に2つ以上の回答を認めたもので、その百分率の合計は100%を超える場合がある。

暮らし向き — 「苦しくなっている」という人は46%、50代では57%

Q1 お宅の暮らし向きは、去年の今頃とくらべてどうでしょうか。楽になっていますか、苦しくなっていますか、同じようなものですか。
SQ お宅の暮らし向きが「苦しくなっている」とお感じの理由を、この中から3つまであげてください。(M.A.)

暮らし向き

●50%が「同じようなもの」と回答している。「苦しくなっている」は46%と、4割を超えている。

経年比較

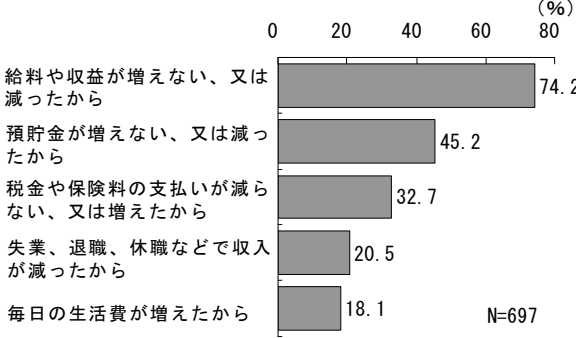
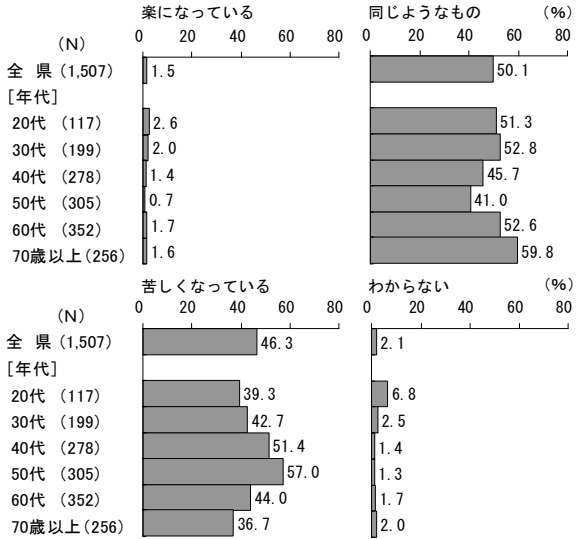
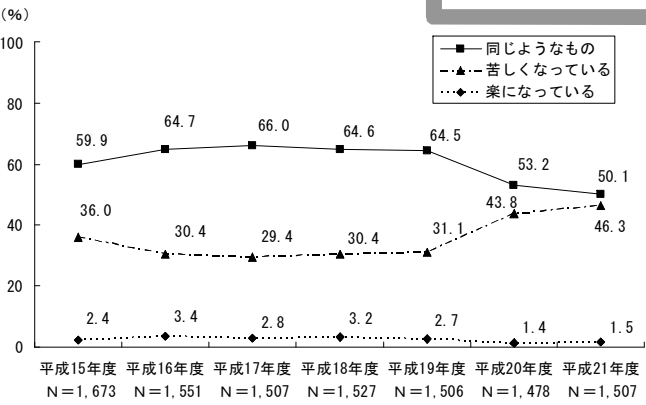
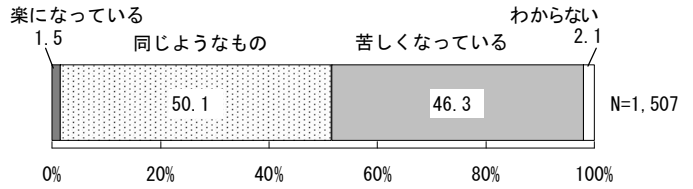
●「苦しくなっている」は、平成16年度以降、おおむね30%前後で推移していたが、平成20年度、21年度と2年連続で4割台となった。本年度は前年度より2.5ポイント増加し、昭和55年の調査以来最も高くなっている。
 一方、「同じようなもの」は、本年度は前年度より3.1ポイント減少し、全体のほぼ半数となった。

年代別

●「苦しくなっている」と回答している人は、20代から50代にかけて年代が上がるにつれ増加しており、40代では51%、50代では57%と、半数以上を占めている。

SQ 苦しくなっている理由

●「給料や収益が増えない、又は減ったから」が74%で最も高く、以下、「預貯金が増えない、又は減ったから」、「税金や保険料の支払いが減らない、又は増えたから」の順となっている。(右図は上位5位)



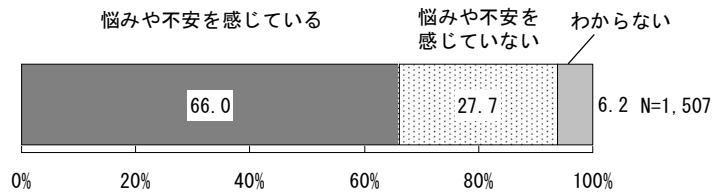
日常生活の悩みや不安 —— 「悩みや不安を感じている」人は66%

Q2 あなたは日常生活の中で、悩みや不安を感じていますか。それとも別に不安は感じていませんか。

SQ 悩みや不安に思っていることは、どのようなことですか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

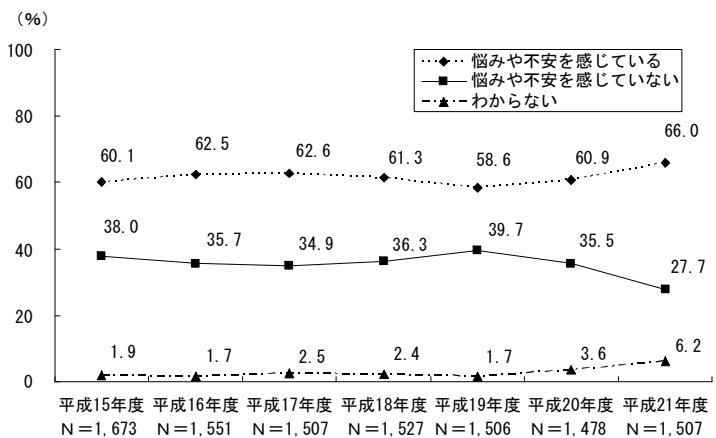
日常生活の悩みや不安

●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」人は66%と、ほぼ3人に2人の割合となっている。



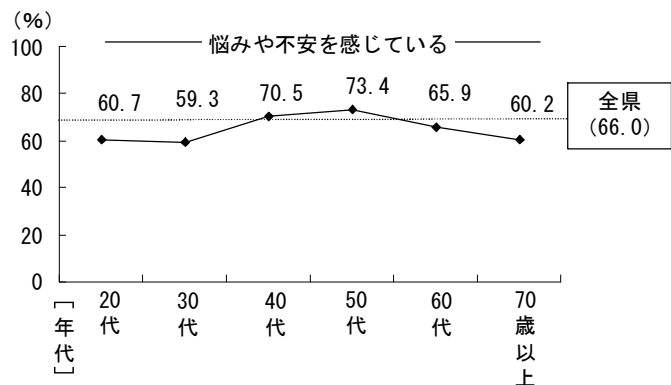
経年比較

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、平成15年度以降、大きな変動はなく推移していたが、本年度調査では、前年度と比較して5.1ポイントの増加となった。「感じていない」人は、本年度調査では前年度と比較して7.8ポイント減少し、2割台にとどまった。



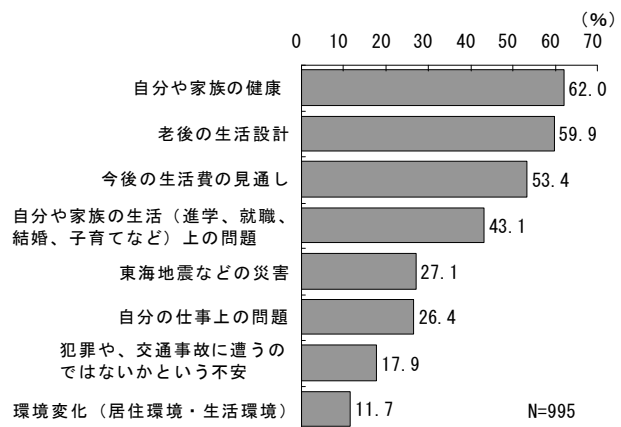
年代別

●「悩みや不安を感じている」人の割合は、50代をピークとして、40代から60代において高めとなっている。



SQ 悩みや不安の内容

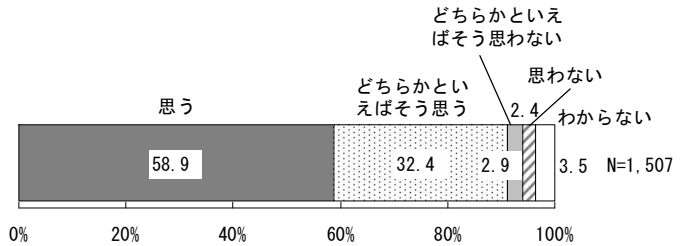
●日常生活の中で「悩みや不安を感じている」と回答した人に、その内容についてたずねたところ、「自分や家族の健康」が62%で最も高く、以下、「老後の生活設計」、「今後の生活費の見通し」、「自分や家族の生活上の問題」、「東海地震などの災害」の順になっている。(右図は「その他」を除く)



Q3 あなたは、静岡県は住みよいところだと思いますか。
SQ あなたが、静岡県は住みよいところだと思う理由を、次の中から3つまであげてください。(M.A.)

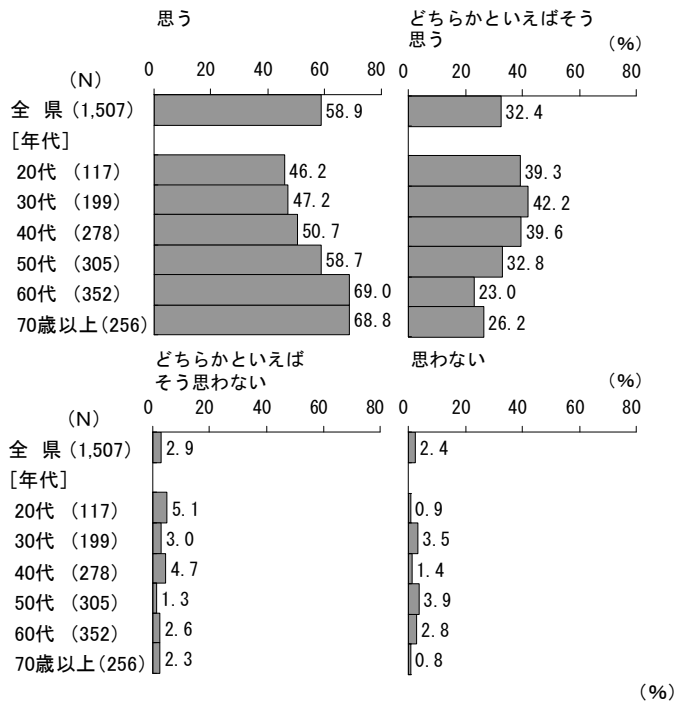
静岡県の住みよさ

●「思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて 91%の人が静岡県は住みよいところだと思うと回答している。



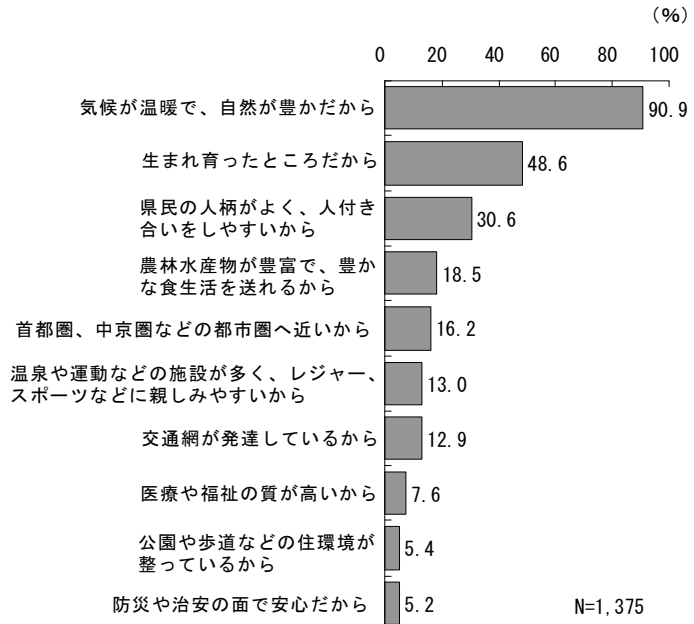
年 代 別

●「思う」は、年代が上がるにつれ高くなる傾向がある。最も高い 60 代では 69%となっており、最も低い 20 代とは 22.8 ポイントの差がある。



SQ 住みよいところだと思う理由

●静岡県は住みよいところだと「思う」と回答した人に、その理由についてたずねたところ、「気候が温暖で、自然が豊かだから」が 91%で最も高く、以下、「生まれ育ったところだから」、「県民の人柄がよく、人付き合いをしやすいから」、「農林水産物が豊富で、豊かな食生活を送れるから」、「首都圏・中京圏などの都市圏へ近いから」、「温泉や運動などの施設が多く、レジャー、スポーツなどに親しみやすいから」、「交通網が発達しているから」、「医療や福祉の質が高いから」、「公園や歩道などの住環境が整っているから」、「防災や治安の面で安心だから」の順になっている。(右図は上位10位)

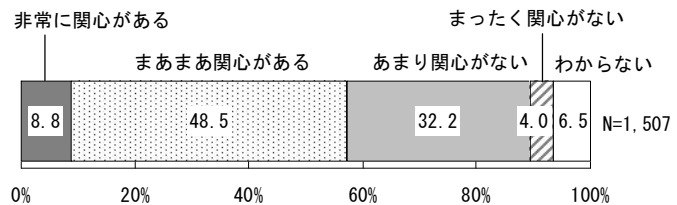


県政への関心度 ———— 県政に「関心がある」人は57%

Q4 あなたは県の政治や行政にどの程度関心がありますか。
SQ1 県政に関心がある理由をこの中から1つだけあげてください。
SQ2 県政に関心がない理由をこの中から1つだけあげてください。

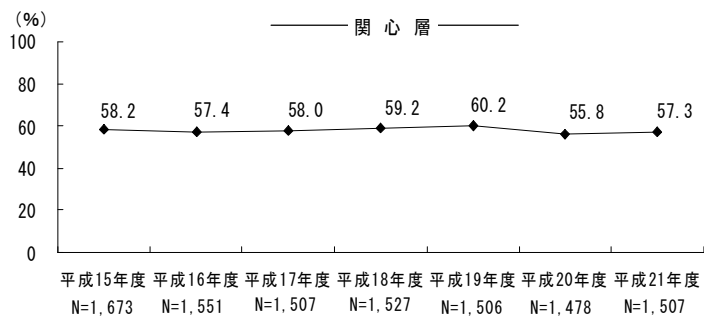
県政への関心度

- 「非常に関心がある」と「まあまあ関心がある」を合わせて57%の人が県政に関心があると回答している。



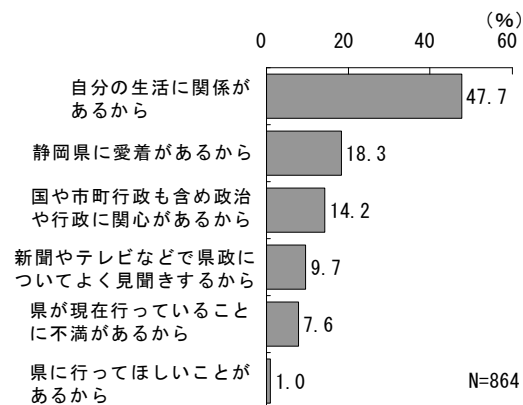
経年比較

- 平成15年度以降ほぼ横ばいで推移してきた“関心層”は、平成20年度に一旦減少したが、本年度は前年度に比べ1.5ポイントの増加となっている。



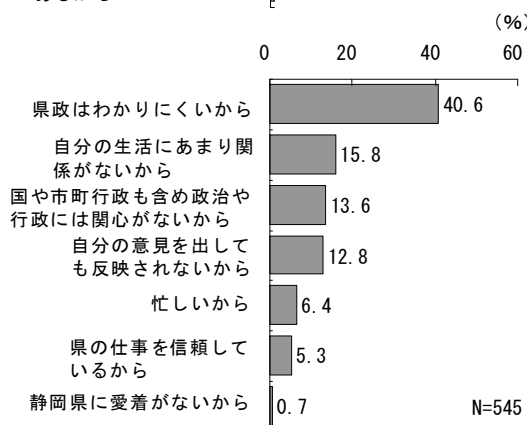
SQ1 関心がある理由

- 「自分の生活に関係があるから」が48%で最も高く、以下、「静岡県に愛着があるから」、「国や市町行政も含め政治や行政に関心があるから」の順となっている。(右図は「その他」を除く)



SQ2 関心がない理由

- 「県政はわかりにくいから」が41%と最も高い。以下、「自分の生活にあまり関係がないから」、「国や市町行政も含め政治や行政には関心がないから」の順となっている。(右図は「その他」を除く)



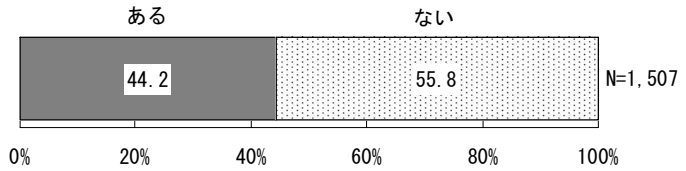
県への意見や要望

——意見や要望、不満が「ある」人は44%、そのうち県に伝えた人は7%

Q5 あなたはこの1年間に県の仕事について、意見や要望を持ったり、不満を感じたことがありますか。
SQ1 それでは、そのことを県に伝えましたか。
SQ2 意見や要望及び不満があっても、県に伝えなかった主な理由をこの中から1つだけあげてください。

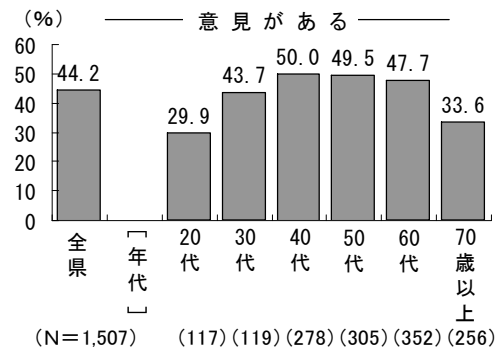
県への意見や要望、不満

●県の仕事について、意見や要望及び不満が「ある」と回答した人は、44%となっている。



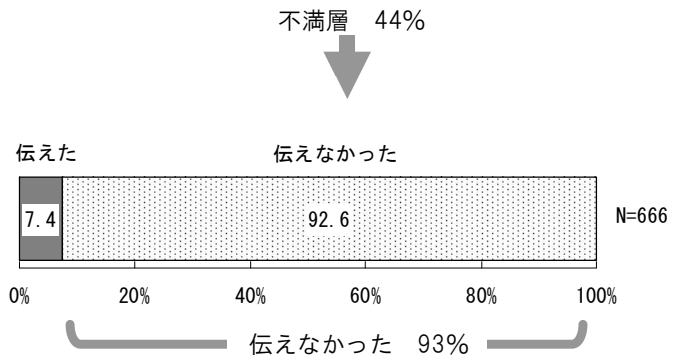
年代別

●意見や要望、不満が「ある」人の割合は中高年代で高く、40代、50代の両年代では、いずれも約半数を占めている。



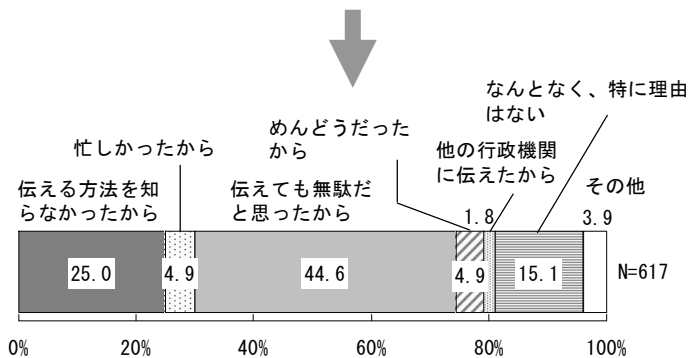
SQ1 伝達の有無

●意見や要望、不満が「ある」人のうち、県に伝えた人は7%にとどまっている。



SQ2 伝達しなかった理由

●県の仕事について意見や要望を持ったり、不満を感じたことが「ある」人のうち、そのことを県に「伝えなかった」人にその理由を聞いたところ、「伝えても無駄だと思ったから」が、45%で最も高くなっている。次いで「伝える方法を知らなかったから」が25%となっている。



県への意見や要望を反映させる手段

—— 「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が31%で最も高い

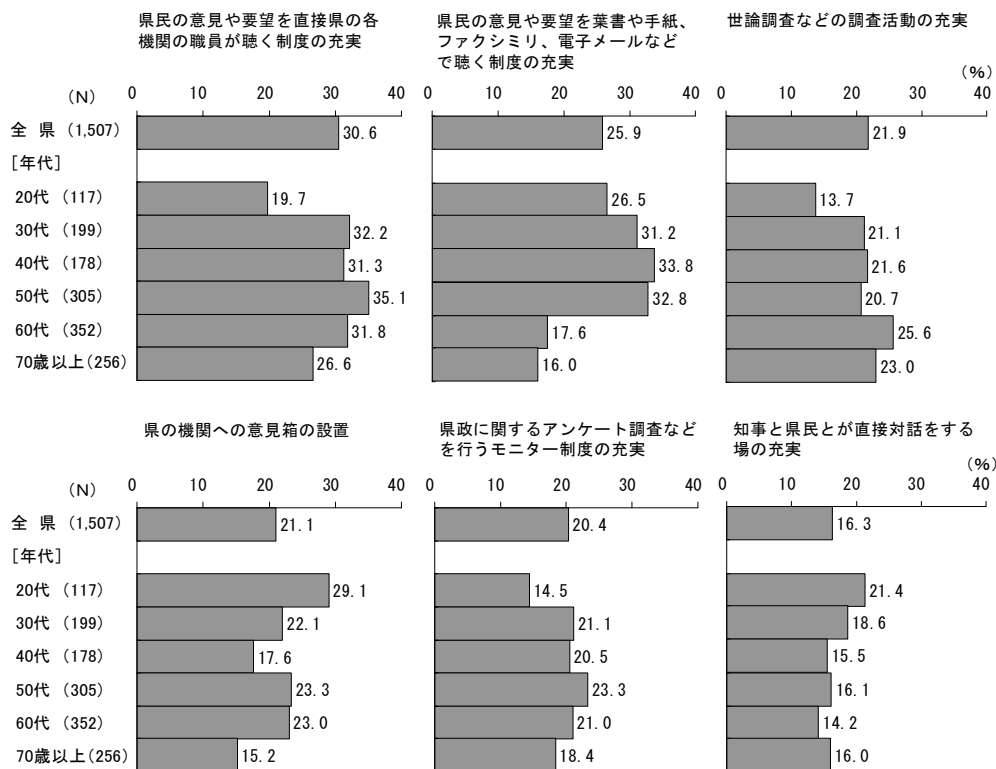
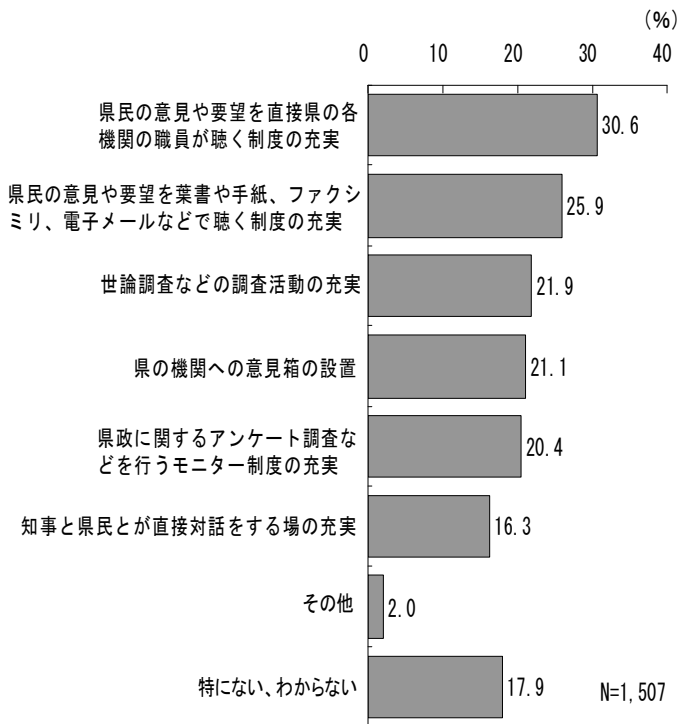
Q6 あなたの意見や要望を県政に反映させるために、どのようなことを充実させてほしいですか。この中から2つまであげてください。(M.A.)

県への意見や要望を反映させる手段

● 「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」が31%で最も高く、以下、「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」、「世論調査などの調査活動の充実」、「県の機関への意見箱の設置」の順となっている。

年 代 別

● 最も要望の高い「県民の意見や要望を直接県の各機関の職員が聴く制度の充実」は、50代で35%と最も高い。また2番目に要望の高い「県民の意見や要望を葉書や手紙、ファクシミリ、電子メールなどで聴く制度の充実」は、30～50代で3割を超えている。



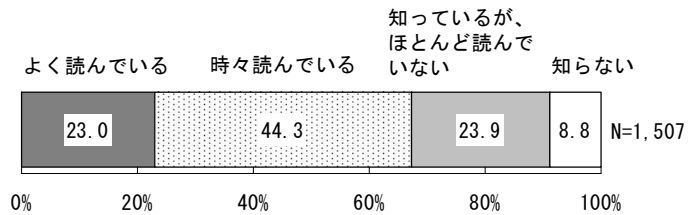
広報媒体の浸透度

—— 「県民だより」を読んでいる人は67%、「テレビ広報番組・コマーシャル」を見た人は69%

Q7 あなたは、次にあげる県の広報を読んだり、見たり聞いたりしたことがありますか。それぞれについて1つだけお答えください。

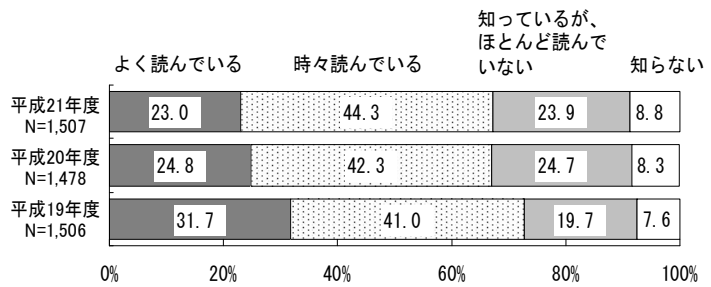
県民だより

- 「よく読んでいる」人が23%、「時々読んでいる」人が44%で、合わせると67%が読んでいる。



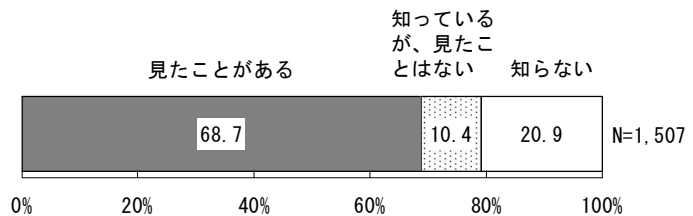
経年比較

- 本年度は、前年度と比べ「よく読んでいる」、「時々読んでいる」を合わせた割合は0.2ポイント増加している。



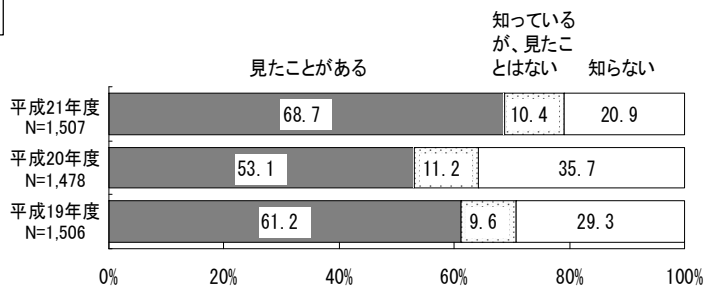
テレビ広報番組・テレビコマーシャル

- 「見たことがある」が69%、「知らない」が21%で、「見たことがある」人が48ポイント上回っている。



経年比較

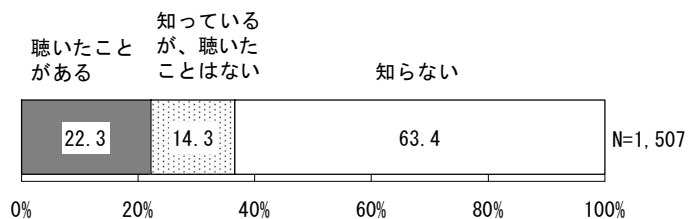
- 今回の調査では前年度に比べ「見たことがある」は15.6ポイントの増加となったが、これは、平成20年度調査までは「テレビコマーシャル」のみについての質問であったが、今年度調査から「テレビ広報番組」を含めたための増加と見られる。



注) 平成20年度までは「テレビコマーシャル」のみについての質問。

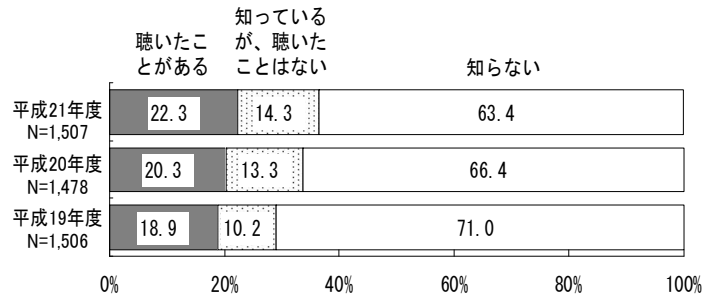
ラジオ広報番組

- 「聞いたことがある」は22%、一方、「知らない」は63%となっている。



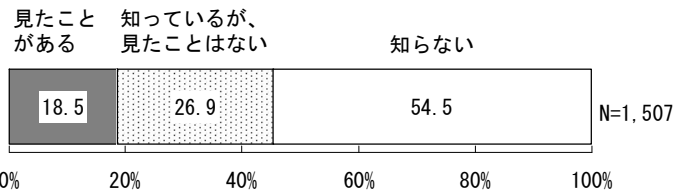
経年比較

- 「聞いたことがある」割合は、平成19年度から徐々に増加の傾向にある。



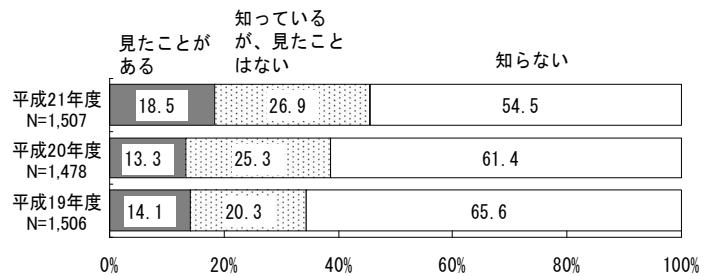
県のホームページ

- 「見たことがある」が19%、「知らない」が55%となっている。



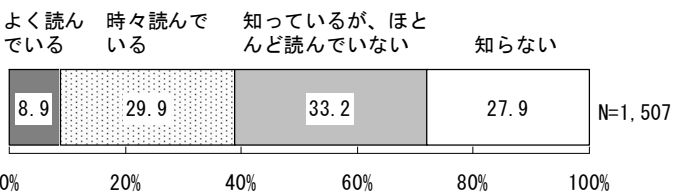
経年比較

- 「見たことがある」割合は、平成19年度から平成20年度にかけて微減したが、本年度は前年度に比べ、5.2ポイントの増加となっている。一方、「知らない」割合は、毎年減少の傾向にある。



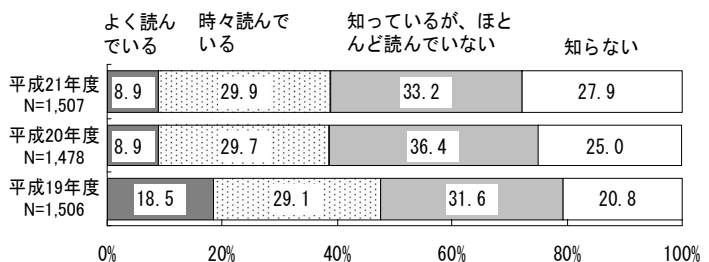
静岡県議会だより

- 「よく読んでいる」人が9%、「時々読んでいる」人が30%で、合わせると、約4割の人が読んでいる。



経年比較

- 「よく読んでいる」割合は、平成19年度から20年度にかけて9.6ポイント減少したが、今回の調査では前年度と同率となっている。一方、「知らない」割合は19年度以降最も高く、28%となっている。



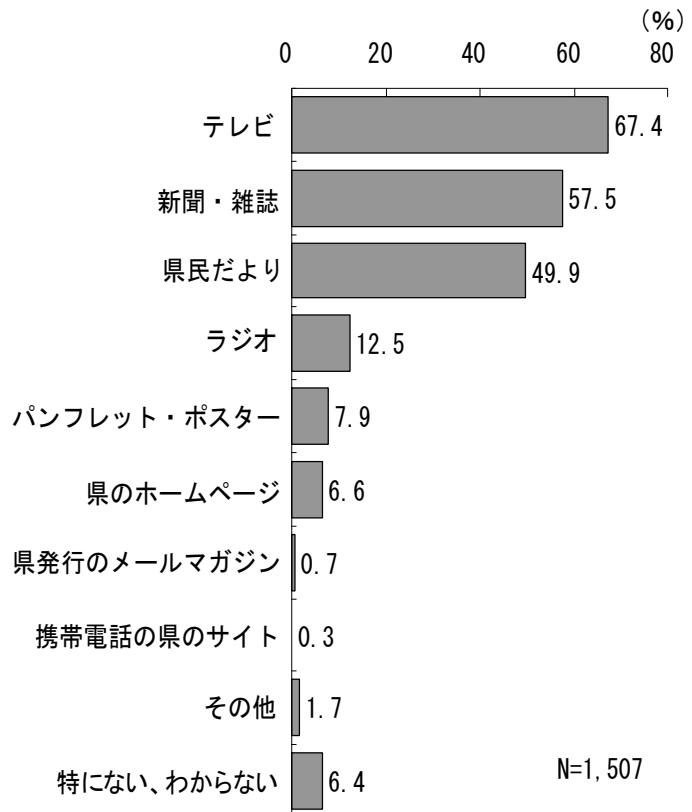
県政情報の入手先

——「テレビ」からの情報入手が67%でトップ

Q8 あなたは、日ごろ、県政に関する情報を何から知ることが多いですか。この中からいくつかもあげてください。(M.A.)

県政情報の入手先

●「テレビ」が67%で最も高く、以下「新聞・雑誌」が58%、「県民だより」が50%の順となっている。

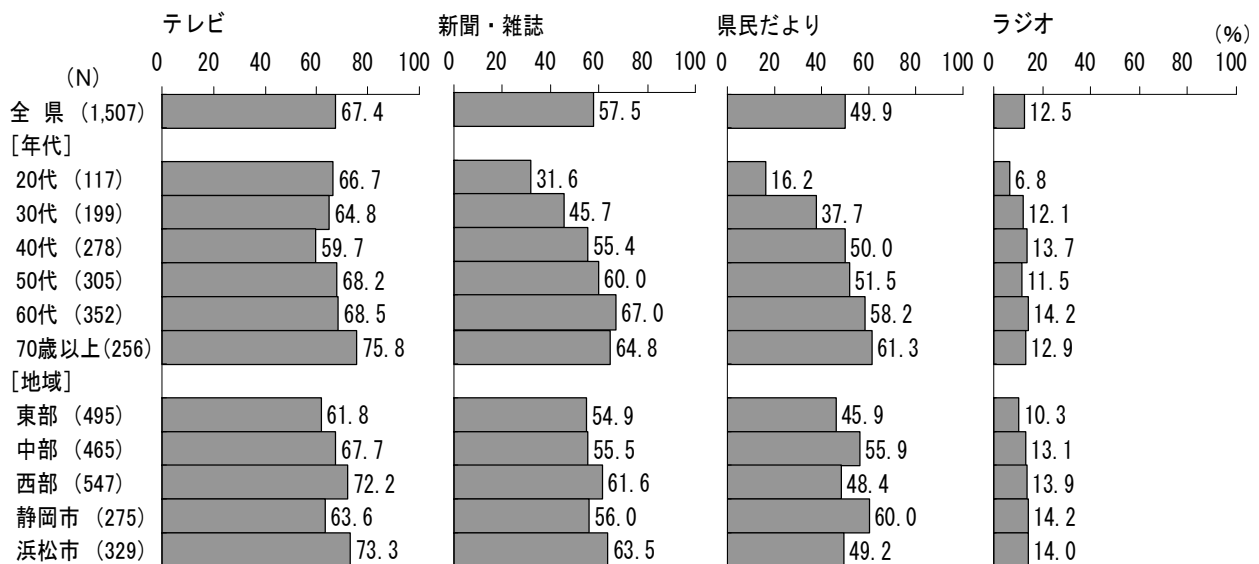


年代別

●「テレビ」は、70歳以上で最も高く、76%となっている。「新聞・雑誌」、「県民だより」は、年代が上がるにつれ増加する傾向がある。

地域別

●「テレビ」は西部が72%、中部が68%、東部が62%となっており、東部と西部との間には10ポイント以上の差が見られる。



注) 地域内の「中部」は静岡市を、「西部」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

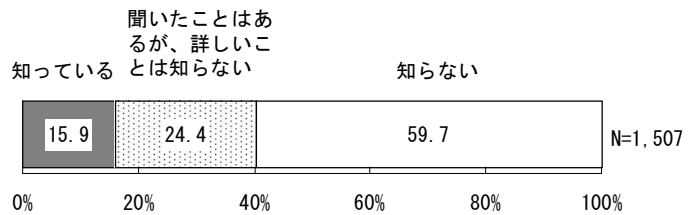
県の主要イベントや用語の周知度

——「メタボリックシンドローム」はほぼ9割の人が「知っている」

Q9 あなたは、次のイベントや用語をご存知ですか。それぞれについて1つだけお答えください。

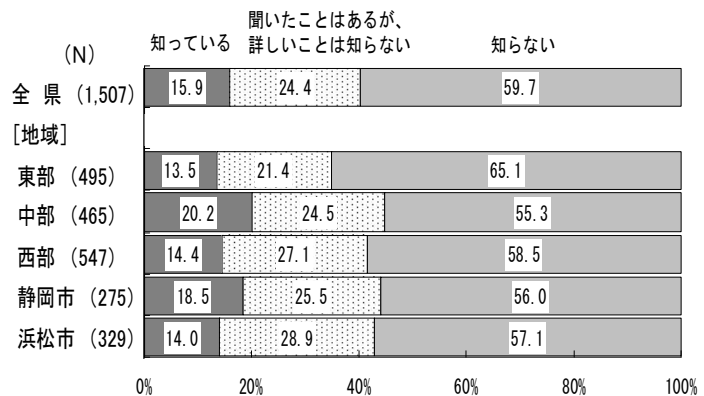
第24回国民文化祭・しずおか2009

- 「知っている」は16%で、「知らない」は60%となっている。



地域別

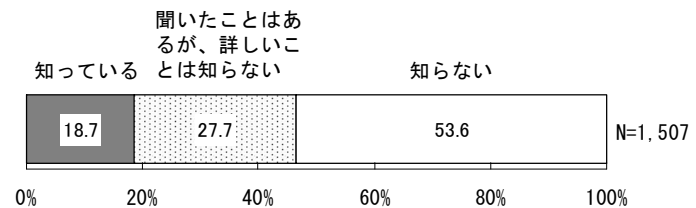
- 「知っている」割合は、中部で最も高く、20%となっている。一方「知らない」割合は東部で最も高く、65%となっている。



注) 地域内の「中部」は静岡市を、「西部」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

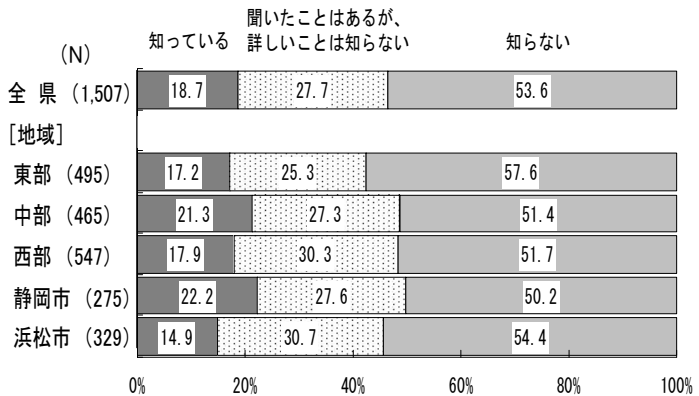
県民の日

- 「知っている」は19%で、「知らない」は54%となっている。



地域別

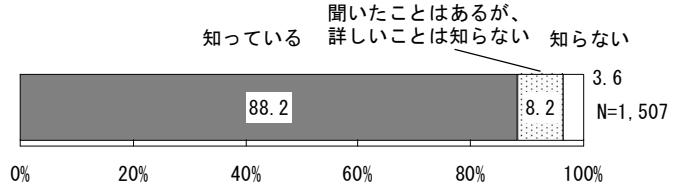
- 「知っている」割合は、静岡市、中部で2割を超え、それぞれ22%、21%となっている。



注) 地域内の「中部」は静岡市を、「西部」は浜松市を、それぞれ含めた数字である。

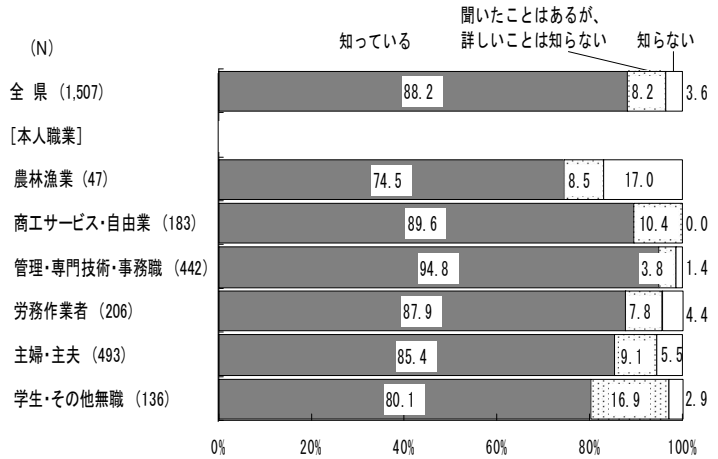
メタボリックシンドローム

- 「知っている」が88%とほぼ9割を占め、「知らない」は4%にとどまっている。



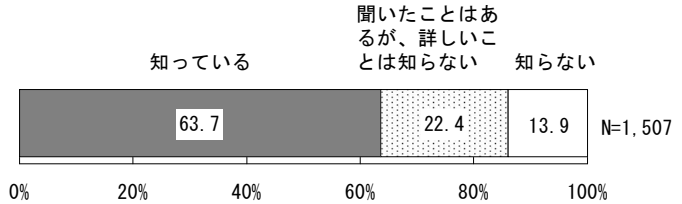
本人職業別

- 「知っている」割合は、管理・専門技術・事務職で95%となっている。



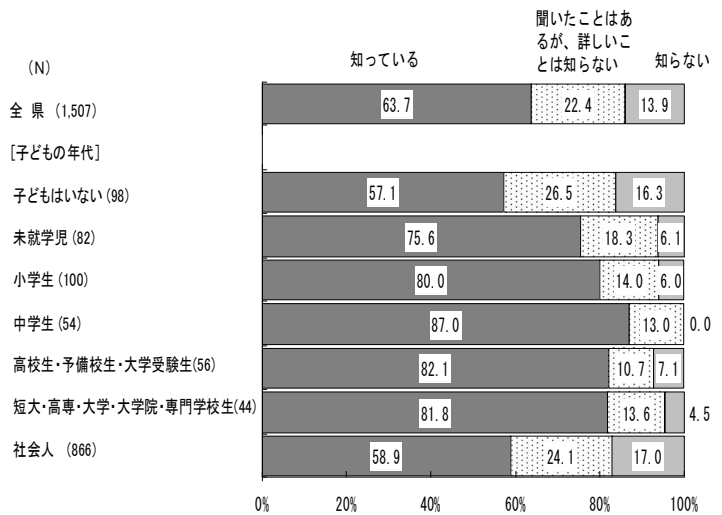
食育

- 「知っている」は64%で、「知らない」は14%となっている。



子どもの年代別

- 「知っている」割合は、中学生を子どもに持つ人で最も高く、87%となっており、これに、高校生・予備校生・大学受験生を子どもに持つ人が82%で続いている。



Q10 あなたが、県に特に力を入れてほしいと考えることを、この中から5つまであげてください。(M.A.)

県に望む施策

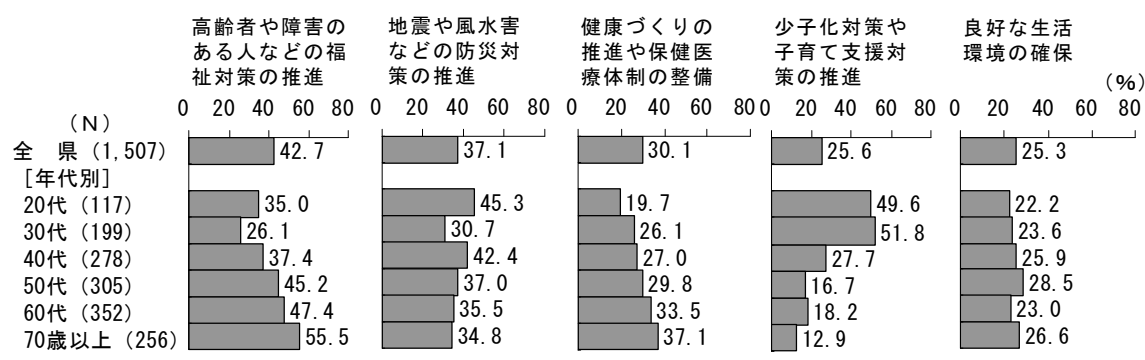
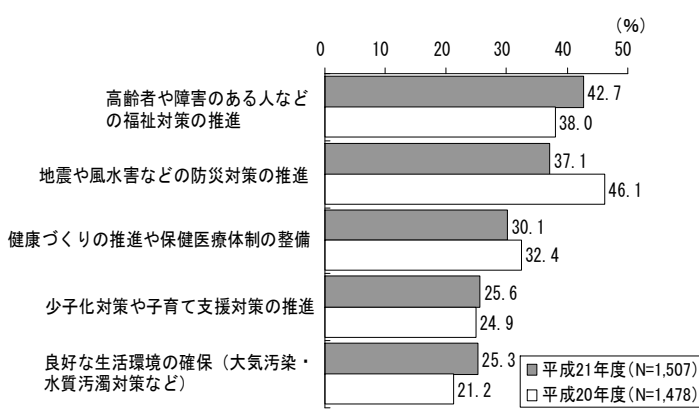
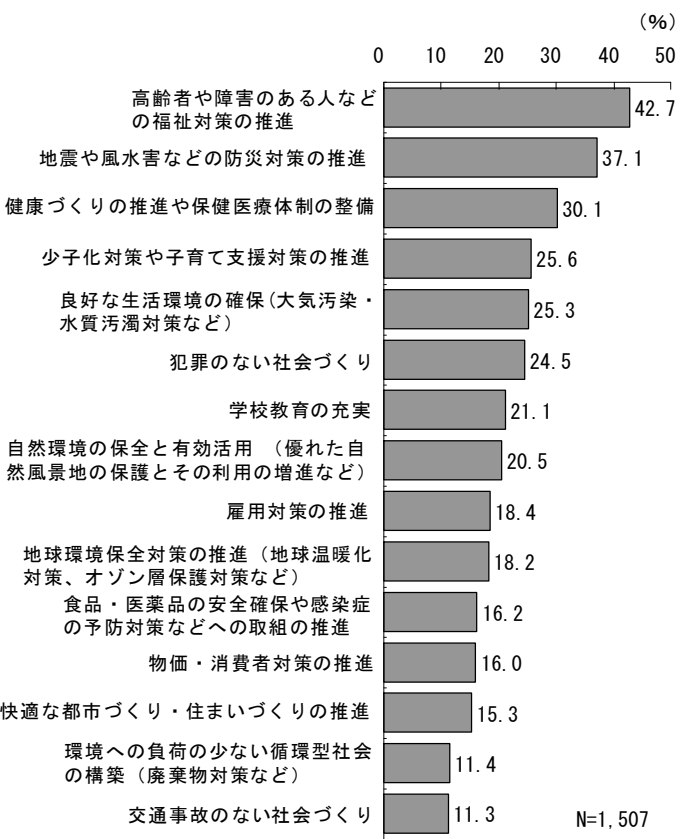
●「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」が43%で最も高くなっている。以下、「地震や風水害などの防災対策の推進」、「健康づくりの推進や保健医療体制の整備」、「少子化対策や子育て支援対策の推進」、「良好な生活環境の確保」の順となっている。(右図は上位15位)

経年比較

●「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」は、前年度は2位であったが、4.7ポイント増加して第1位となった。「少子化対策や子育て支援対策の推進」は0.7ポイント増加し、第5位から第4位に、「良好な生活環境の確保」は4.1ポイント増加し、第8位から第5位に上昇した。

年代別

●「高齢者や障害のある人などの福祉対策の推進」は、70歳以上で最も高く、56%となっている。また、「少子化対策や子育て支援対策の推進」は20代、30代でいずれもほぼ半数を占め、他の年代に比べ高くなっている。



県民の地域活動への参加に関する意識

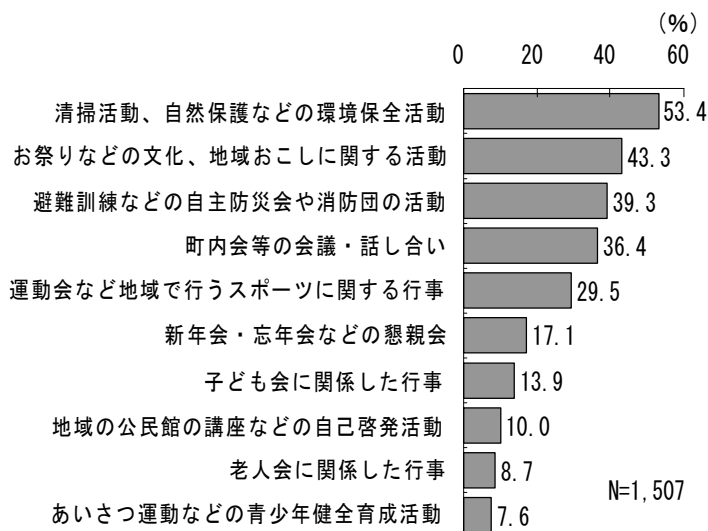
—— 「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」への参加が53%で最も高い

Q11 地域活動への参加状況についてお聞きします。あなたは、地域のどのような行事や活動に参加していますか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

Q12 現在、私たちの身の回りには、防犯対策、ごみ問題、高齢社会への対応等、地域社会として取り組んでいくことが重要な様々な問題が山積しています。そこで、あなたが、地域活動に自発的に参加したくなるための条件として、何が必要と考えますか。この中からいくつでもあげてください。(M.A.)

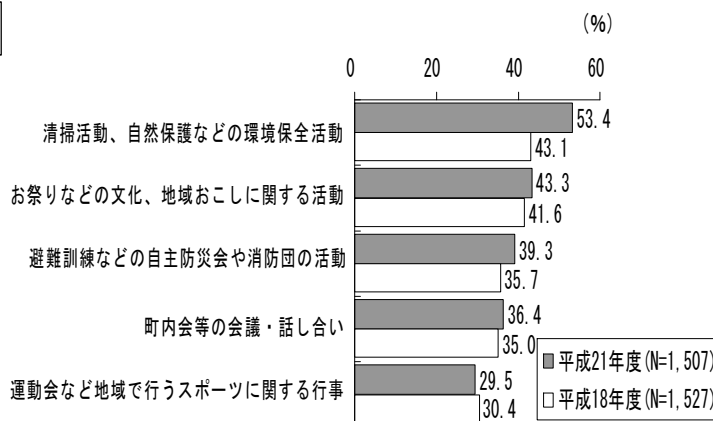
参加している地域の行事や活動

●「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」に参加している人の割合が53%で最も高い。以下、「お祭りなどの文化、地域おこしに関する活動」、「避難訓練などの自主防災会や消防団の活動」、「町内会等の会議・話し合い」、「運動会など地域で行うスポーツに関する行事」、「新年会・忘年会などの懇親会」、「子ども会に関係した行事」、「地域の公民館の講座などの自己啓発活動」、「老人会に関係した行事」、「あいさつ運動などの青少年健全育成活動」の順となっている。(右図は上位10位)



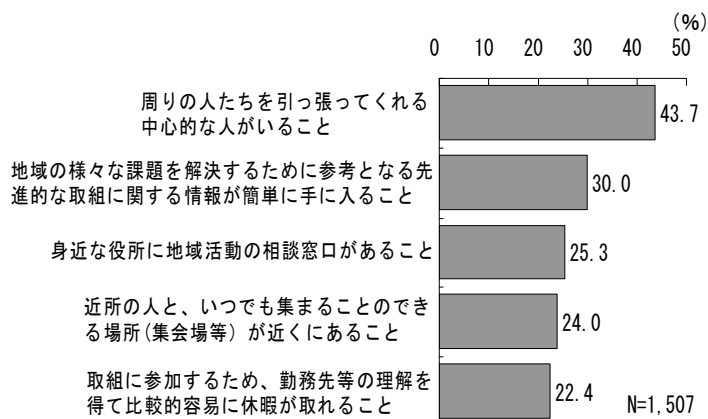
経年比較

●平成18年度の調査と比べると、第1位の「清掃活動、自然保護などの環境保全活動」は、今回の調査では10.3ポイント増加している。



地域活動に自発的に参加したくなるための条件

●「周りの人たちが引っ張ってくれる中心的な人がいること」が44%で最も高い。以下「地域の様々な課題を解決するために参考となる先進的な取組に関する情報が簡単に手に入ること」、「身近な役所に地域活動の相談窓口があること」の順となっている。(右図は「その他」、「わからない」を除く)



環境問題に関する意識

——7割の人が、「廃棄物の大量発生や不法投棄」を重要な問題と認識

- Q13** あなたは、現在、環境にかかわって、どのようなことが重要な問題であると思っていますか。この中から3つまであげてください。(M.A.)
- Q14** あなたが環境を守るために、普段心がけていることは何ですか。この中からすべてあげてください。(M.A.)
- Q15** あなたが次世代に快適な環境を継承していくため、県に、より積極的に取り組んでほしいと思うことは何ですか。この中から3つまであげてください。(M.A.)

環境にかかわって重要な問題

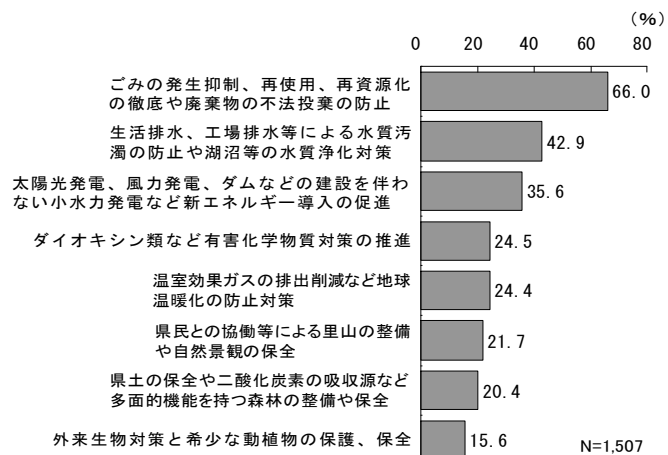
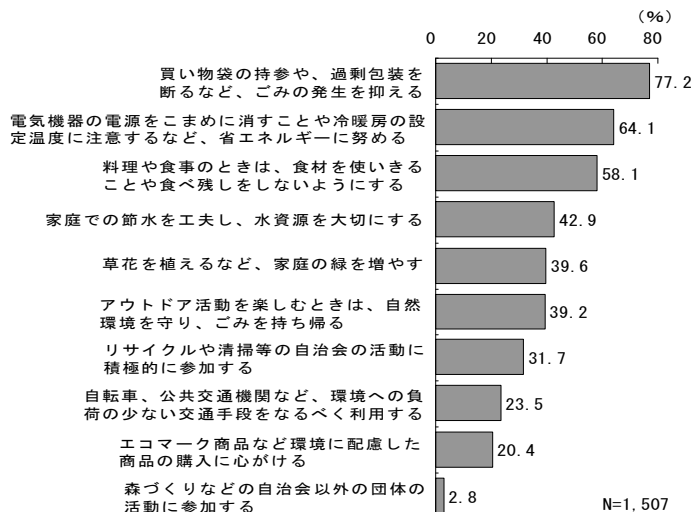
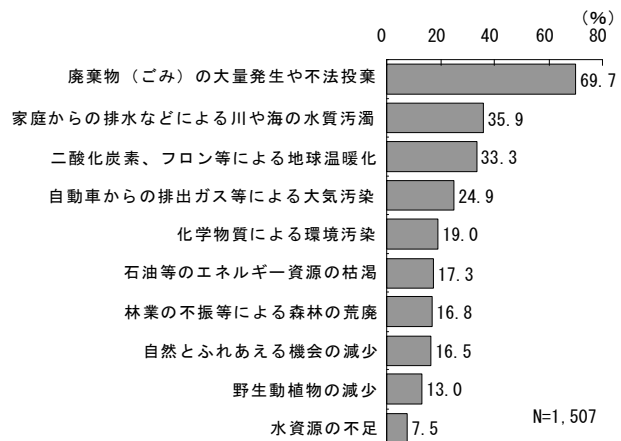
- 「廃棄物の大量発生や不法投棄」が70%で最も高い。以下、「家庭からの排水などによる川や海の水質汚濁」、「二酸化炭素、フロン等による地球温暖化」の順となっている。(右図は「その他」、「特にない、わからない」を除く)

環境を守るために、普段心がけていること

- 「買い物袋の持参や、過剰包装を断るなど、ごみの発生を抑える」が77%で最も高い。以下「電気機器の電源をこまめに消すことや冷暖房の設定温度に注意するなど、省エネルギーに努める」、「料理や食事のときは、食材を使い切ることや食べ残しをしないようにする」の順となっている。(右図は「その他」、「特にない、わからない」を除く)

快適な環境を継承するため、県に積極的に取り組んでほしいこと

- 「ごみの発生抑制、再使用、再資源化の徹底や廃棄物の不法投棄の防止」が66%、で最も高い。以下、「生活排水、工場排水等による水質汚濁の防止や湖沼等の水質浄化対策」、「太陽光発電、風力発電、ダムなどの建設を伴わない小水力発電など新エネルギー導入の促進」の順となっている。(右図は「その他」、「特にない、わからない」を除く)



地域がん登録に関する意識

—— “賛成層” は8割 賛成の理由は「自分が治療を受けるときに役立ちそうだから」が70%
 反対の理由は「個人情報の保護に不安があるから」が65%

Q16 わが国では、35道府県で地域がん登録（制度）を実施しており、個人情報保護に十分配慮した上で、がん患者の名前、住所、治療内容等のデータを収集し、性別や年齢別でのがんの罹患率（かかりやすさ）、がんを発見した理由（自覚症状か、がん検診か）、がん医療の状況（治療を受けている医療機関や生存率など）などの分析を行い、がん対策の全体の取組に役立っています。

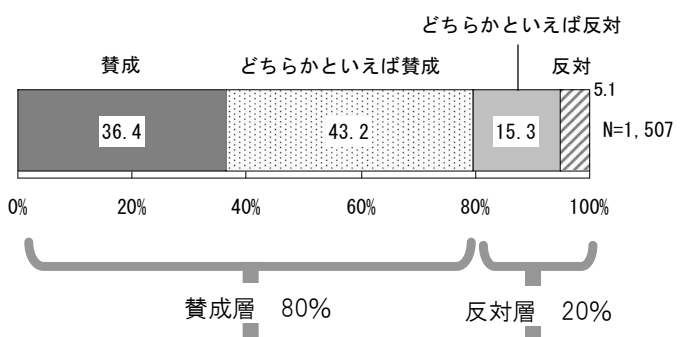
現在、静岡県では地域がん登録（制度）を実施していません。これらについて詳しい分析ができません。そのため、県は県が平成19年度に策定した「静岡県がん対策推進計画」において、地域がん登録（制度）の導入について検討することを定めています。あなたは静岡県における地域がん登録（制度）の導入について、どのように思いますか。

SQ1 「賛成」または、「どちらかといえば賛成」とした理由をこの中からいくつかもあげてください。（M.A.）

SQ2 「どちらかといえば反対」または、「反対」とした理由をこの中からいくつかもあげてください。（M.A.）

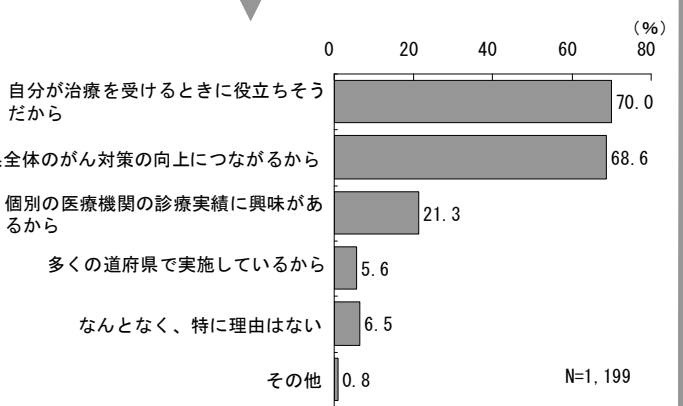
地域がん登録（制度）についての賛否

● 「賛成」が36%、「どちらかといえば賛成」が43%となっており、両者を合わせた“賛成層”が、全体の8割を占めている。



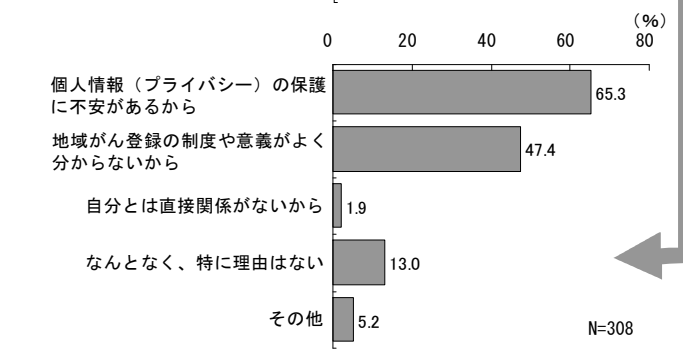
SQ1 地域がん登録に賛成の理由

● 「自分が治療を受けるときに役立ちそうだから」が70%で最も高く、次いで「県全体のがん対策の向上につながるから」が69%となっている。



SQ2 地域がん登録に反対の理由

● 「個人情報の保護に不安があるから」が65%で最も高く、次いで「地域がん登録の制度や意義がよく分からないから」が47%となっている。



農林水産業・農山漁村に関する意識

—— 「地元でとれた新鮮な産物の供給」への期待が62%で最も高い

- Q17** あなたが、静岡県の農林水産業に期待するものは何ですか。この中から特に期待することを3つまであげてください。(M.A.)
- Q18** あなたが、安全・安心な県内産農産物を安定的に生産・供給していくために必要と思うものは何ですか。必要と思うものをこの中から3つまであげてください。(M.A.)

静岡県の農林水産業に期待するもの

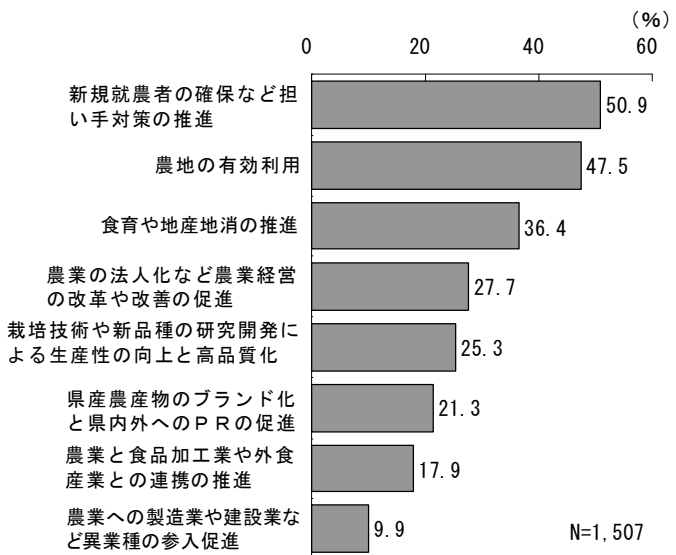
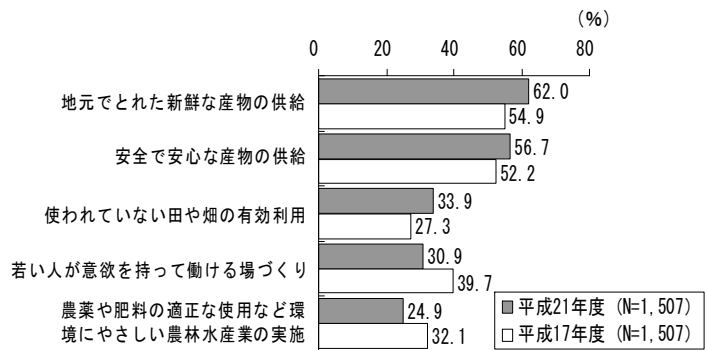
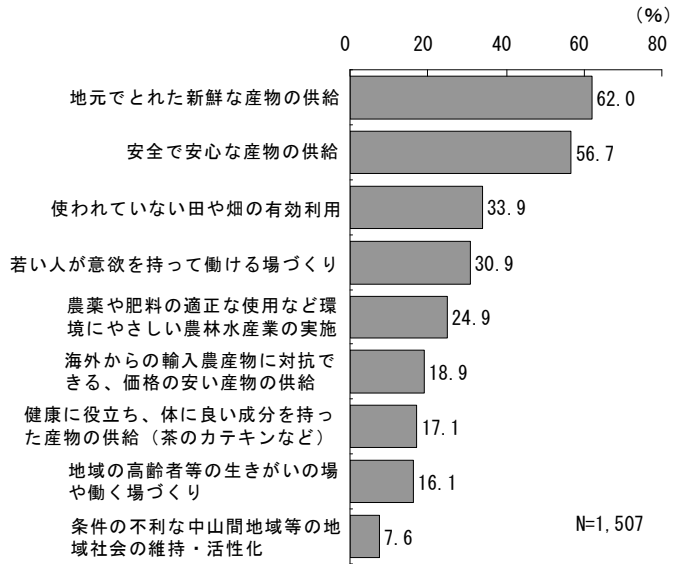
- 「地元でとれた新鮮な産物の供給」が62%で最も高く、次いで「安全で安心な産物の供給」が57%となっている。(右図は「その他」、「特にない、わからない」を除く)

経年比較

- 平成17年度と比較してみると、上位2項目の「地元でとれた新鮮な産物の供給」、「安全で安心な産物の供給」の順位は、今回の調査でも変わっていないが、いずれの割合も前回より増加しており、前者は7.1ポイント増、後者は4.5ポイント増となっている。

安全・安心な県内産農産物の安定的生産・供給に必要と思うもの

- 「新規就農者の確保など担い手対策の推進」が51%で最も高く、次いで「農地の有効利用」が48%となっている。(右図は「その他」、「特にない、わからない」を除く)



観光客の受入れに関する意識

——住んでいる地域に観光客などの訪問客が増えることについて

「経済効果が期待できるので望ましい」と考える人が38%

Q19

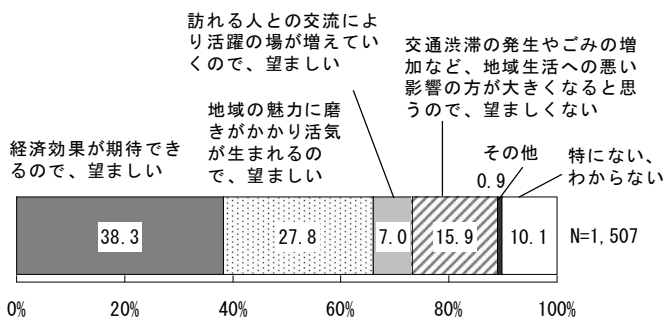
観光は農林水産業、商工業など他の産業への波及効果が大きいので、今後、人口の増加が見込めない社会において、観光客などによる交流人口の増大は、地域の活性化の切札であるといわれています。あなたは、住んでいる地域に観光客などの訪問客が増えることについて、どう思いますか。この中から1つだけあげてください。

Q20

観光の推進には、地域の人々がその地に住むことに誇りを持ち、観光客などの訪問客と交流することによりその魅力を伝えることが期待されます。あなたは、他の地域からの訪問客とふれあうことについてどう思いますか。この中から1つだけあげてください。

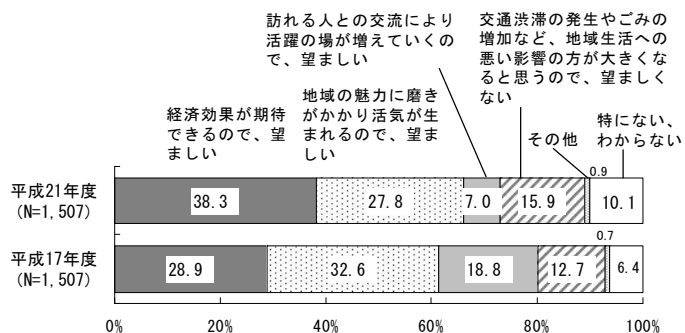
住んでいる地域での観光客などの訪問者の増加について

- 「経済効果が期待できるので、望ましい」と考える人の割合が最も高く、38%となっている。



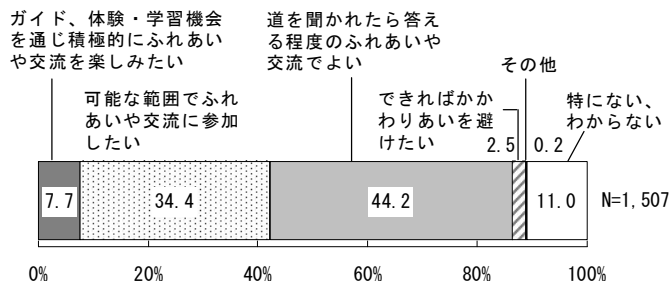
経年比較

- 平成17年度と比較すると、「経済効果が期待できるので、望ましい」は、9.4ポイントの増加となっている。



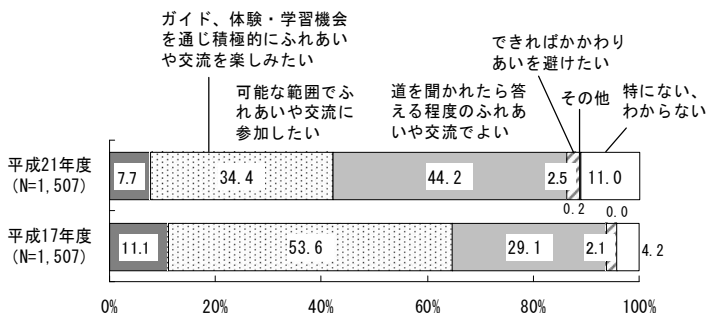
他の地域からの訪問客とのふれあいについて

- 「道を聞かれたら答える程度のふれあいや交流でよい」と考える人の割合が最も高く、44%となっており、これに「可能な範囲でふれあいや交流に参加したい」が34%で続く。



経年比較

- 平成17年度に半数強の54%を占めた「可能な範囲でふれあいや交流に参加したい」は、今回の調査で19.2ポイントと大きく減少している。



森林（もり）づくり県民税と森の力再生事業に関する意識

——「森林（もり）づくり県民税」の認知度は3割

Q21 森林には「山崩れの防止」や「水を蓄える」などの様々な働きがありますが、手入れが行き届かない森林では、これらの働きが低下して、私たちの生活に影響がでることが心配されます。これらの働きを回復するために、「森林（もり）づくり県民税」を負担していただいています。

あなたは、「森林（もり）づくり県民税」を知っていますか。

Q22 「森林（もり）づくり県民税」を使って、森林が持つ様々な働きを回復する「森の力再生事業」を行っています。平成 18年度から 3 年間で約 3,400 ha（浜名湖の面積の約半分）の森林を整備し、全体計画の約 28%が完了しました。

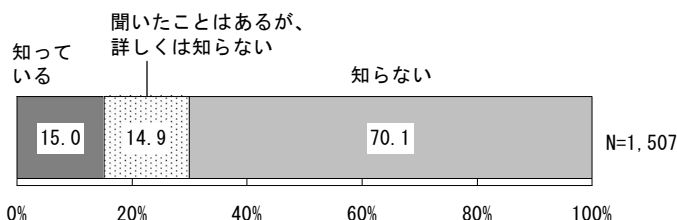
あなたは、「森林（もり）づくり県民税」を使って、「森の力再生事業」を行うことについてどのようにお考えですか。

SQ 「森の力再生事業」の費用として 84 億円が必要です。10 年間で整備を行うためには、年間 8 億 4000 万円が必要なことから、「森林（もり）づくり県民税」の税額を決定しました。

あなたは、今後の「森林（もり）づくり県民税」の使い方についてどのようにお考えですか。

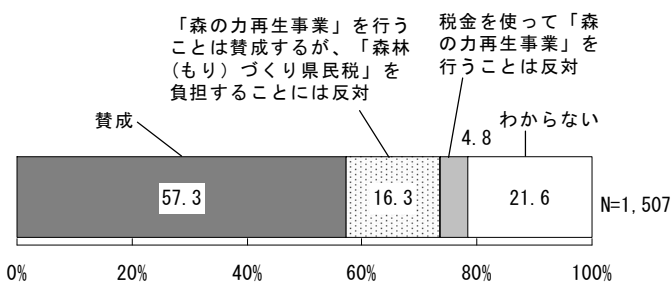
「森林（もり）づくり県民税」の認知度

- 「知っている」が 15%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が 15%で、両者を合わせた、少なくともこの税を聞いたことがある人は、3割を占める。



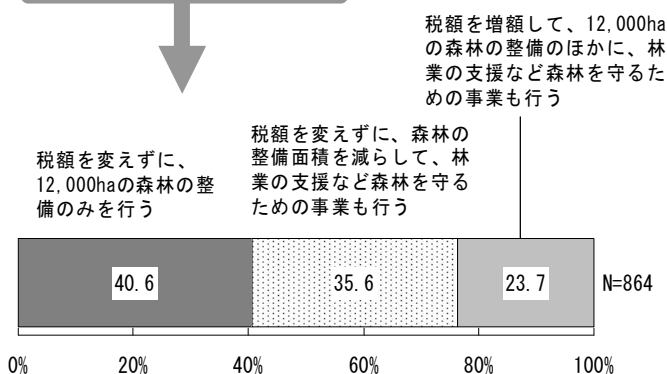
「森林（もり）づくり県民税」の負担について

- 「賛成」が 57%、「森の力再生事業」を行うことは賛成するが、「森林（もり）づくり県民税」を負担することには反対」が 16%となっている。



SQ 今後の、「森林（もり）づくり県民税」の使い方についての考え

- 「税額を変えずに、12,000ha の森林の整備のみを行う」が 41%で最も高い。



静岡県の将来像（10年後の静岡県の姿）に関する意識

——「保健や医療、福祉の体制が充実し、健康で安心して暮らせる県」を望む人の割合が、72%で最も高い

Q23 あなたは、10年後の静岡県がどのような県になってほしいですか。この中から3つまであげてください。(M.A.)

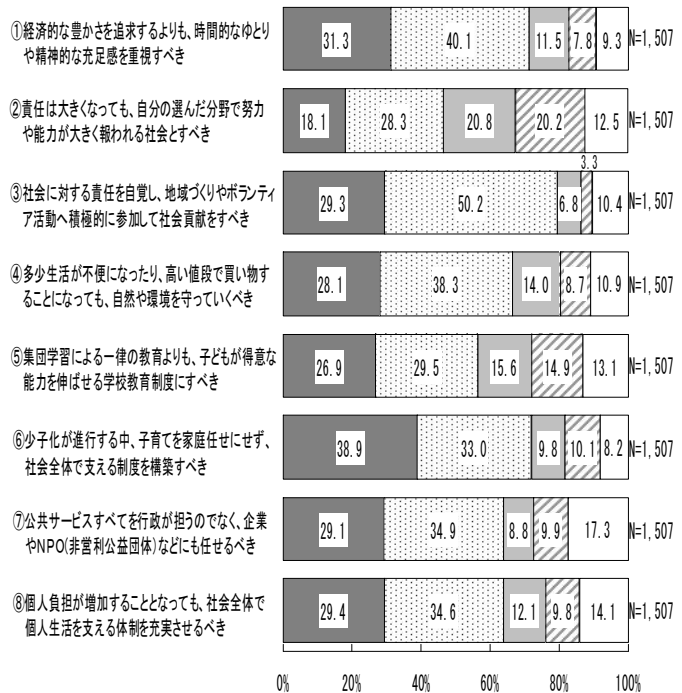
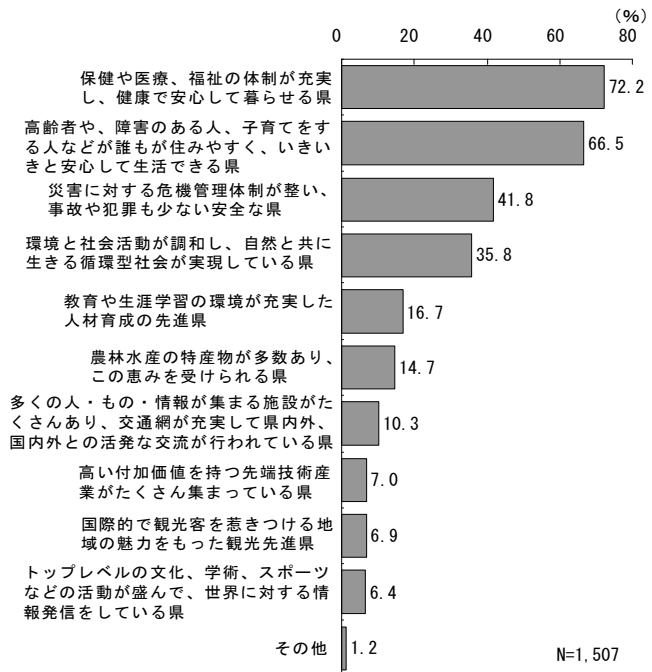
Q24 これからの社会の方向性については様々な意見があります。次に掲げたそれぞれの意見に対して、あなたの考えに近いものをそれぞれ1つあげてください。

10年後の静岡県に望む姿

- 「保健や医療、福祉の体制が充実し、健康で安心して暮らせる県」が72%で最も高い。以下「高齢者や、障害のある人、子育てをする人などが誰もが住みやすく、いきいきと安心して生活できる県」、「災害に対する危機管理体制が整い、事故や犯罪も少ない安全な県」の順となっている。

これからの社会の方向性についての意見に対する考え

- 「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた、“肯定派”の割合は、「地域コミュニティの希薄化が指摘される中、個人的な幸福を追求するだけでなく、社会に対する責任を自覚し、地域づくりやボランティア活動へ積極的に参加して社会貢献をすべき」で最も高く、80%となっている。逆に、“肯定派”の割合が最も低いのは「平等を重視する社会より、競争を重視する社会のほうが望ましい。責任は大きくなって、自分の選んだ分野で、努力や能力が大きく報われる社会とすべき」で、46%となっている。



平成 21 年度

県政世論調査（概要報告書）

平成 21 年 11 月

編集・発行 静岡県県民部県民生活局県民のこえ室
〒420-8601 静岡市葵区追手町9番6号
電 話 (054) 221-2235
F A X (054) 221-2419
e-mail koe@pref.shizuoka.lg.jp